

# 除草剤

ブタミホス粒剤

農林水産省登録 第14654号

## サンケイ クレマート®U粒剤

性 状：灰白色細粒

毒 性：普通物

有効年限：3年

有効成分：ブタミホス (PRTR・1種47) ……3.0%

包 装：3kg袋×8

### 特 長

クレマート®は、住友化学㈱の登録商標です。

- メヒシバ、スズメノカタビラ等のイネ科雑草に有効です。またアブラナ科、ナデシコ科等の多くの広葉雑草にも有効です。
- 本剤のガス作用は極めて少なく、ハウス栽培、トンネル栽培、キャップ栽培およびマルチ栽培等についてもガス抜きなしに使用できます。
- 本剤は土壌吸着が強く、土壌移行性も小さいので、移植栽培の作物に適した除草剤です。
- にんじん、らっかせいのは種直後に使用できます。
- 本剤は、水の便の悪いところでも手軽に処理が可能です。

### 適用雑草名および使用方法

作物名		適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール 当り使用量	本剤の 使用回数	使用方法	適用地帯	ブタミホスを含む 農業の総使用回数
たまねぎ	春播	畑 一年生 雑 草	定植後(雑草発生前) 但し収穫60日前まで	砂壤土 ～ 埴土	5～7kg	1 回	全面土壌 散布	全域	1 回
	秋播		定植後又は春季の雑草発生前 (但し収穫60日前まで)						
すいかん メロン	定植・マルチ前 (雑草発生前)		4～6kg		うね間、株 間土壌散布				
キャベツ	定植前～定植直後 (雑草発生前)								
トマト	定植活着後 (雑草発生前) 但し定植10日後まで		5～6kg		全面土壌 散布				
ねぎ、わけぎ あさつき	植付後萌芽前 (雑草発生前)								
やまのいも さといも、にんにく	は種後発芽前 (雑草発生前)		4～6kg		うね間、株 間土壌散布				
ばれいしょ	植付後又は培土後 (雑草発生前) 但し収穫120日前まで								
らっかせい にんじん	挿苗後(雑草発生前) 挿苗3日後まで		4～6kg		全面土壌 散布				
こんにゃく	定植前(雑草発生前)								
かんしょ	定植後(雑草発生前) 但し定植10日後まで		3回以内		全面土壌 散布				
きゅうり	定植後(雑草発生前)								
にら	植付後又は生育期 (雑草発生前)		4kg		全面土壌 散布				
きく	植付後萌芽前 (雑草発生前)								
つつじ、さつき しゃくなげ さざんか	春季発芽前および 夏季収穫後発芽前 (雑草発生前)	8～10kg	2回以内						
やまのいも(むかご)	植付10日前まで (雑草発生前)								
桑	植付後萌芽前 (雑草発生前)	5kg	湛水散布						
たばこ (折衷マルチ栽培)	植付後出芽前 (雑草発生前)								
くわい	水田一年生 雑草								

## 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤は雑草発生前処理の効果は大きいですが既発生の雑草には効果が劣るので、必ず雑草発生前に全面に均一に散布してください。
- 多年生雑草およびキク科雑草およびツユクサには効果が劣るので、それらが優占する圃場での使用はさけてください。
- 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣るので土壌が適度の水分を含んでいる時に使用してください。
- こんにゃく、らっかせい、かんしょ等に使用する場合は、とくに碎土、整地、覆土は、ていねいに行って均一に散布してください。
- 作物の生育中に散布する際は、できるだけ薬剤が作物にかからないように注意してください。
- 桑に使用する場合、桑葉にかかることと葉害を生ずるので、給桑葉のない春季又は夏季収穫後の桑の発芽前に散布してください。
- たばこに使用する場合、葉害を生じることがあるので、植付時に処理土壌が茎葉に付着しないように注意してください。  
また、トンネル栽培および改良畦面栽培では使用しないでください。
- キャベツの定植直後に使用する場合は、次の注意を守ってください。
  - 降雨または朝露等により葉面が濡れている状態では使用しないでください。
  - 極端な深植えでは使用しないでください。
- くわいに使用する場合、砂質土壌の水田や漏水田（減水深2cm/日以上）への使用は避けてください。また、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないでください。
- 散布の際、付近の他の作物にかからないように注意してください。
- 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

## 安全使用上の注意事項

- 誤食などのないよう注意してください。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。  
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤による中毒の治療法としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の併用投与が有効であると報告されています。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。  
また、粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は身体を石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

## 水産動植物に係る注意事項

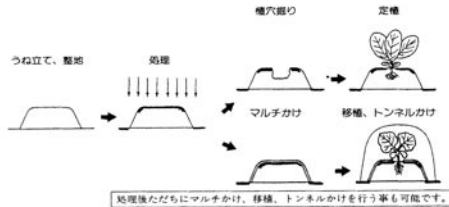
- 通常の使用方法では影響は少ないですが、一時に広範囲に使用する場合には十分注意してください。

# クレマートU粒剤、乳剤の基本的な使い方

## 1. 使用時期

クレマートの使用方法は雑草の発芽前に全面土壌散布で効果を発揮します。具体的には作物によって定植（移植）前と後及びは種または植付け後に分類されます。

### ① 定植前処理



### ② 定植後処理

処理後ただちにマルチかけ、移植、トンネルかけを行う事も可能です。



### ③ は種、植付け後処理



## 2. 使用量

一般に除草剤の選択性は有効な使用量において作物に薬害が認められないことが条件で、クレマートの場合土壌吸着性が選択性の大きな要因となっており、過剰な散布は土壌吸着量を越えその選択性が失われ薬害の要因になります。散布されたクレマートは土壌粒子の表面に吸着され、その吸着量は当然その表面積に比例します。一定量の土壌において粒子の大きさに表面積は反比例することから土壌の粒子が大きい砂壤土では少な目の使用量（10a当り乳剤200ml、粒剤4kgを標準）、粘土含量が多い植土では多めの量（10a当り乳剤400ml、粒剤6kgを標準）で使用します。